

---

# 悲しい恋

上条麗香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

悲しい恋

### 【Nコード】

N4782Y

### 【作者名】

上条麗香

### 【あらすじ】

23歳まで燃えるような恋も知らず過ごしてきた一人の女が、ある日突然声をかけられたときから女の恋が、始まる。でもその恋はハッピーエンドでは終われない悲しい女の恋である。

木枯らしの吹く寒い日、私は重い荷物を引きながら今日も仕事場に向かつて歩いてた

私の仕事は演歌の歌手、と、言ってもキャバレーやホテルを拠点として歌っている

まあいわゆる名前も無い売れない歌い手です。でも結構この仕事に気に入っている、色々な町にいけるしギヤラも悪くない。おはようございます。夜だと言うのにこれが私たちの挨拶

へよう、おはよう。この人はこのキャバレーのバンマス（バンドマスターバンドの中で一番偉い人）

へ呉さおりです、よろしくお願いします。これが私の芸名

さそつくバンドさんに譜面を渡して音合わせ。ショータイムまで2時間楽屋へ戻ってお化粧を済ませて私は近くの喫茶店へ直行。あまりおいしくないコーヒを飲んでいると。ちよっといいかな。その声に顔を向けると結構いい顔の（今でいうイケ面）男性が立っていた。へえ、何か？。へもしかして今日あのキャバレーで歌う呉さおりさん？。へええ、そうですけど。へ突然ごめん、キャバレーの看板に貼られていた写真を見てどうしても会いたくて会いに来たんだ、少し話をしてもいいかな？。へごめんなさい、もう少しでショーが始まるから、。へ「それじゃ、終わってからまたここで会ってもらえないかな。僕もショーを観てここで待つてから」。「ええいいわ！それじゃまた」私は始めて会った人なのにすぐ返事をしてしまった。自分に少し驚きと恥ずかしさを覚えた、今までこんな事はなかった。もう23歳なのに。彼氏も作らず一人で各地を歩き回ってそれがとても楽しい。下手に彼氏がいるとどこも行きたくなってしまうような気がしてわざとそういうことを避けてきたような気がする、でもあの人だけは避けたくないと強く自分の心の声がした、この日は2回のショーがとても長く感じられた、何故か私も会いたいあの人に、

、、、

ショーを終えて私は濃い化粧を落として急いであの喫茶店へ向かった  
あの人はさっき私が居たテーブルにタバコの火をくゆらせながら待  
っていた、

「お待たせして」「ああ！有難う来てくれて」本当に嬉しそうに彼  
は言った

「僕は椎名浩二ソフト関係の仕事をしている27歳の男です」と彼  
は自分のことを紹介してくれ

「僕は、君に一目ぼれしたんだよね いや君の写真にかな」「まあ、  
それじゃ実物を見てがっかりされたんじゃないかしら？」「いや実  
物を見て2度惚れたよ」「本当に言っているの」「本当だよかつ  
たら真剣に付き合ってほしい！」「本気にするわよ」私はこの時す  
でに恋に落ちていた、知らない町で始めて会った人にこんなに惹  
かれるなんてありえるのかしら、でもこれは夢でもなにものでもな  
い現実だ

私はこんな事にとまどいながらも自分の中に燃え上がる心を抑える  
事が出来なかった

それからスケジユウルをこなしながら、彼の居る町に行つて彼と  
のひと時を楽しんでいた

私がいに行けない時は、彼が会いに来てくれた。

このままいったら、結婚しようと言はきつてくるだろう、で  
も私はもうしばらくこの恋を楽しみたい、まだ結婚はしたくない一  
緒にはいつもいたいけど、狂おしいほどのこの今の気持ちを保つ  
ていたい

会ったときの狂おしさ会えない時の切なさ、今がとっても楽しい  
「何をかんがえてるの」と彼は聞いた、久しぶりに彼と二人でホテ  
ルでゆっくりしている「ううん、何もただ幸せだなーっておもつて  
いたの」「もつと君を幸せにしたいなー」「え！」「結婚してくれ  
ないか」やっぱり言ってくれた、私はこういつてくれるのを待つて  
いたのかも知れない

「ええ！うれしいわ」私はこの時もすぐ返事をしていた

「今のスケジユウルをこなしたら仕事を辞めて貴方のところに向つ直ぐいくわ」

「ああ！待ってるよ」こうして一目ぼれから始まった私たちの恋は完全に熟そうとしていた

私はいつものようにある町のキャバレーで彼のことを思いながら歌っていた

仕事も終わりキャバレーの指定のホテルに戻ると部屋の電話がなった、彼からだ！嬉しくて受話器を取る

知らない女の人の声「呉さおりさんですか」「ええそうです」「落ち着いて聞いてください、私は椎名浩二の妹です。兄は今日の4時28分に亡くなりました。交通事故です」私は言葉が出ない

これはきつと夢明日の朝になったら覚める夢そうよ絶対に夢そう何度も自分に言い聞かせていた

あれからどれほどの年月が経ったのだろう、今も私はキャバレーで歌っている

二度と恋は出来ないだろう、あれほど好きになれる人もいないだろう、今の私は歌が恋人

それでいい、いつも歌っている時はあの人こそそばにいてくれるから、

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4782y/>

---

悲しい恋

2011年11月17日18時32分発行